

# 日山協自然保護ニューズレター (平成 26 年夏号)

発行日 平成 26 年 8 月 1 日 発行元 公益社団法人日本山岳協会自然保護委員会

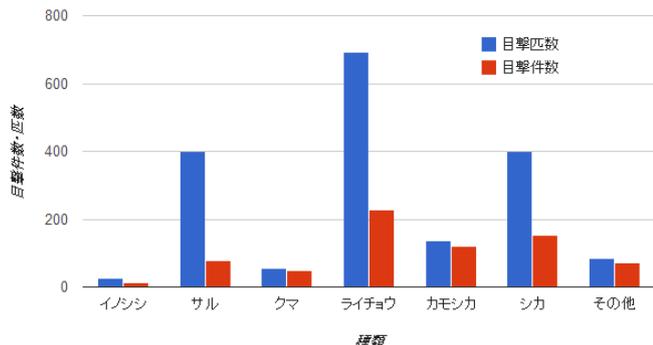
## 山の野生鳥獣目撃レポート

山岳団体自然環境連絡会（日本山岳協会ほか 6 団体）が運営するこのプロジェクトは、引き続きレポートを受け付けております。

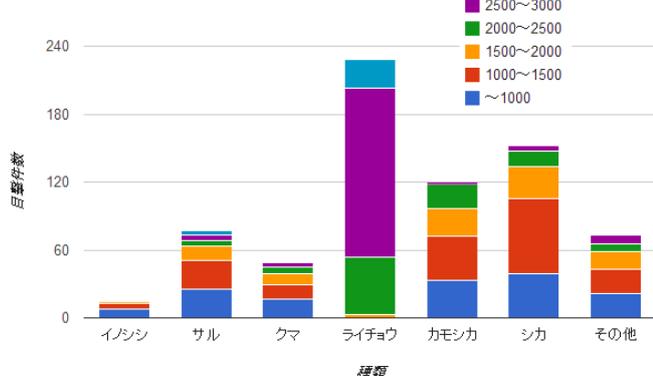
東北・北海・中国・四国・九州からの投稿促進を期待しております。

- 1) ホームページへのアクセス  
(2014/4/1~2014/7/31 の調査)  
アクセス数：719 件 閲覧ページ数：1,676 件  
アクセスの地域割合：東京 30%、大阪 10.5%、  
神奈川 6.6%、愛知 5.3%、埼玉 (5%)
- 2) 累計レポート件数 (2009/4/1~2014/7/31)  
706 件
- 3) 集計結果  
詳しくは：ホームページにて公開中です。

目撃件数・匹数 種類別分布



標高別・野生鳥獣 目撃件数分布



(山の野生鳥獣目撃レポートホームページ)

[www.jma-sangaku.or.jp/conservation/yaseichoju/](http://www.jma-sangaku.or.jp/conservation/yaseichoju/)

## 自然保護常任委員研修会

平成 26 年 6 月 14 日~15 日の 2 日間、御岳山（東京都青梅市）にて自然保護常任委員研修会を開催し、坂口三郎顧問をはじめ 24 名（常任委員及び関東地区山岳連盟自然保護委員を含む）が参加した。

昨年 11 月に仙台で環境省の主催で開かれた第一回アジア国立公園会議で『自然の聖地』と保護地域の討議がされ、聖地における精神的・文化的作用が果たした生物多様性への役割が着目され、「地域の文化やその精神性」と結びつけた「新しい自然保護」のあり方への検討が示唆された。このこともあって、山岳信仰の事情を聴取することを目的に御岳山をベースに二日間の研修を行った。



第一日目、御岳ビジターセンター職員の柄澤洋城氏から「御岳よもやま話」と題した講話と、御岳神社主幹宮司の片柳光雄氏から「山岳信仰」と題した講話を聴講した。

第二日目は神社所有地となる七代の滝~ロックガーデン~綾広の滝とのコースで植生を巡検した。

記事詳細については登山月報第 544 号（7 月 15 日発行）に掲載があります。

### 柄澤洋城氏講演要旨

御岳山は秩父多摩甲斐国立公園の東端にあつて、年間 8 万 3 千人が訪れる。海拔が約 850m 付近の限られた土地に 39 世帯で 150 人ほどが暮らし、武蔵御岳神社と 27 軒の宿坊を中心に御師集落を形成している。関東一円から多くの崇敬者を集め、江戸末期から現在まで続いてきた。山の上の孤立していることから、つい最近まで、水や交通などの生活基盤が厳しい状態であった。そのことが逆に、きちっとした社会規範と強い絆で結ばれた共同体社会として独自の文化を醸成した集落となっている。

御岳の代表花はレンゲショウマで、全てが自生したもの。下刈りなど少し手をかけながら増やしてきた。最近ではシカの侵入が見られ、レンゲショウマへの影響が心配されている。動物ではムササビがかなりの頭数が生息している。必ず見ることができるので、ビジターセンターでも観察会がしばしば企画されている。「ブッポーソー」と啼くコノハズクの声もここ数年間に聞こえなくなった。自然の変化が影響か。巨木も多く、300 年を越える樹齢の木々。一帯は神社の境内林で、殆んど自然のまま、極相林の相を呈している。一部の払下げ地では人工造林が進められてはいる。

片柳光雄氏講演要旨

武蔵御嶽神社は単立宗教法人で、神社本庁に属さず、独自に運営されている。ふつうの神社では宮司は一人だが、ここでは 27 軒ある宿坊の御師と呼ばれる主は全てが宮司。御師の家では継承者が子孫の親と必ず同居して職を世襲で伝承するしきたり。それぞれの宮司がそれぞれ自分の神社だと思って、崇敬者が 40 万人と対応している。山岳信仰の以前は民俗信仰とし、山の頂上に宿る神を信仰しはじめ、修験道に取り込まれ、修験者の中から祈禱を生業とするものが現れ、そういう人たちが崇敬者や講社に宿を提供する事によって御師集落が発達してきた。現在、本殿の社は真東、つまり江戸城を向いているが、これは江戸時代徳川家康公の命で改築されたもので、元は鎌倉の方角を向いていたと言われている。それぞれの時代の権力者から信奉も集めていた。鎌倉武士の畠山重忠が奉納したという大鎧が国宝として神社に所蔵されている。武蔵御嶽神社のご祭神は櫛真智命と言って、学問や占いの神様で、このほか 23 の末社があり、交通安全とか安産などの社もある。これらを 27 名の宮司で運営している。こちらの神社では、年末には崇敬者のお宅へお札を配って回り、その返礼として崇敬者は翌春に参宮することが習慣となって、相互関係が保たれている。

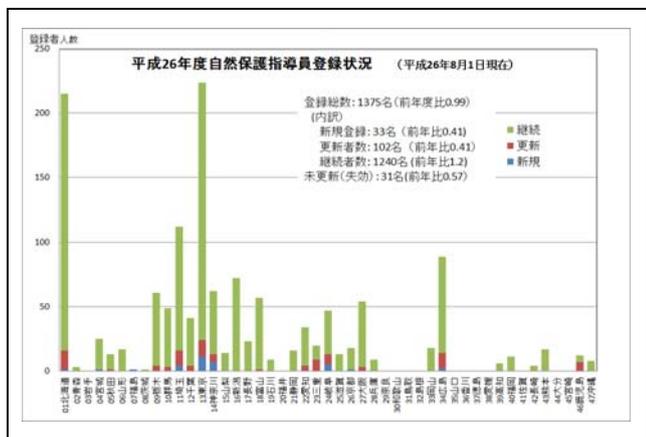
所感

武蔵御嶽神社本殿の一番奥に大口真神社があって伝説の白狼「お犬様」を祀っている。諸災除けの神として関東一円に信仰を集めている。これを題材にした『オオカミの護符』の自著の中で、小倉恵美子さんは、山を拝むこの自然への信心が山に詣でる行いが源泉であるとして、「山を拝むという素朴な行為は、社殿が作られる以前の、山そのものに対する古い信仰を思わせた。」と記している。山の自然を畏れ、敬いながら共生していた先人の自然への信心を呼び覚ます研修となった。

平成 26 年度自然保護指導員登録更新受付状況

平成 26 年度自然保護指導員は 8 月 1 日現在で、1375 名の登録となった。内訳は、新規 33 名、更新 102 名、継続 1240 名となった。

自然保護指導員の登録数は年々右下がりの状況にあり、この状況の改善に向け、より一層のご協力をお願いします。



自然保護指導員の手引き

自然保護指導員の手引きの配布を開始しました。在来の手引きより薄型パスポートサイズ、全 25 ページと致しております。

今回の版では、指導員活動をいたすときの具体的な対応例の記載を折り込んでいます。

指導員の方々におかれましては、本手引きを日々の活動に利用されることを期待します。



山と自然の聖地の集い

4 月 28 日(月)、30 名を集め東京新橋にて「山と自然の聖地の集い」が開かれ、そのなかで、2013 年に出版された『自然の聖地』と題する保護地域管理者のためのガイドラインの日本語版の筆者の一人である古田尚也氏から『自然の聖地』の意味について伺ったので要約を次の通り記す。

「富士山の例にみられるように、特定の自然に対して特別な精神性を見つけた、それを信仰の対象とすることは、日本だけではなく、世界各地で古くから見られる事柄である。こうしたいわゆる『自然の聖地 (SNS: Sacred Natural Site)』に関して、その生物多様性保全に対して果たしてきた役割が、近年世界的にも改めて注目を集めている。」とし、人々とコミュニティにとって特別な精神価値を持つ場所である『自然の聖地』の意味には、自然保護に関する倫理が含まれ、法的な保護地域と同様の機能を果たしてきただけでなく、生物多様性と文化的特性の維持の双方に貢献してきたと評価した。一方、平成 25 年 11 月に仙台で開催された第一回アジア国立公園会議では『自然の聖地』と保護地域のセッションが設けられ、自然の聖地に関するアジアのネットワークの設立に向け動きだした点を挙げ、「文化や精神性と自然保護の結びつきについて、自然保護行政の中でも正面から議論を行う機が熟してきているのではないだろうか。」と講演を結んだ。

『聖地』という言葉が欧米由来の訳語であり、日本の風土に合った表現とは言い難く、違和感がある。固有の風土や精神文化で成り立ってきた『山の神』のように、日本人の自然に対する心のルーツを掘り起し、これからの自然保護のありかたを研究するべきであるし、「生活の中、文化の中にある感覚、慣習を手掛かりにして、日本の自然保護を作っていくことや、再発見していくことが重要である。『自然の聖地』の持つ精神的側面に学び、山岳自然保護へ適用するとのアプローチは、新しい可能性あるにではなかろうか。

この集いを主催した「山と自然の聖地研究会」へは、日本山岳協会自然保護常任委員から6名が参加している。

**第38回 自然保護委員総会開催要項**

第38回の自然保護委員総会は、アジア山岳連盟創立(UAAA)20周年を記念事業と連携して、広島県で開催いたしますこととなりました。開催概要を以下の通り予報いたします。

詳細は未確定のところがありますが、確定しだい開催要項でお知らせいたします。

尚、第二日目に予定の記念行事・国際シンポジウムでは、山岳団体自然環境連絡会の進行にて、

参加アジア各国の山岳事情をはじめ、国内(日山協・労山・JAC・HAT-Jなど)から、山岳自然保護を主題に発表を行う予定です。

- 開催日 平成26年11月22日(土)  
          ~11月24日(月祝)(2泊3日)
- 受付 平成26年11月22日 13:00 ~  
          神田山荘
- 解散 平成26年11月24日 14:00 ~ 解散(予定)
- 場所 広島県広島市 神田山荘
- 主催 公益社団法人 日本山岳協会
- 主管 一般社団法人 広島県山岳連盟
- 費用 24,000円から(調整中)

委員長会議次第  
1) 挨拶  
2) 今総会の進行について

総会次第 司会・進行 自然保護常任委員  
1) 開会式  
    (開会宣言・主催・主管・来賓の各挨拶)  
2) 議事  
    議長選出、書記指名  
    議題  
    A) 自然保護委員会  
        (前年度事業報告・次年度事業計画)  
    B) 活動発表  
    C) 大会スローガンの採択  
    D) 次期開催について  
    連絡事項



**入域料を徴収し、保全費に充てることを認める関連法**

「地域自然資産区域における自然環境の保全及び持続可能な利用の推進に関する法律案」が平成26年6月18日、参議院で可決成立された。

この法案、我が国の国立公園又は国定公園等において利用者数の増加等による自然環境への悪影響が懸念されていることに鑑み、国立公園又は国定公園等の自然環境を保全し、及び持続可能な利用を推進するため、公的資金を用いた取組に加えて、利用者による負担、民間団体等が寄付金を募って行う土地の取得・管理など民間資金を用いた地域の自発的な取組を促進しようとするものであり、受益者負担の考え方を法的に位置づけ、保全費の不足に悩む自治体の財源確保として、入域料を徴収することを認めたものです。

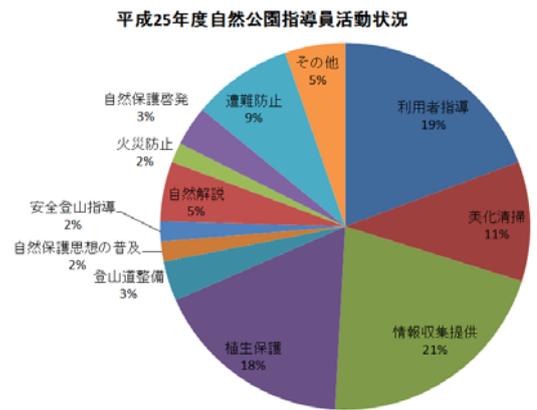
自然環境の荒廃などに対応しようと、利用料の徴収に踏み切る例が多いが、導入の是非を巡って地元の合意形成が難航するケースも目立ってきたといわれたところ、この法成立で、入域料徴収の動きが広がる可能性もある。

**自然公園指導員功労者**

平成26年7月3日付の環境省通知で、尾形憲治氏(宮城県山岳連盟所属)が平成26年度自然公園指導員の功労者として自然環境局長表彰を受けた。

この自然公園指導員制度は、国立・国定公園の利用の適正化のため、公園利用のマナーや事故防止に関する利用者指導、公園管理者側への情報提供等を行う自然公園指導員を、都道府県知事等からの推薦を受け、自然環境局長が委嘱している。公益社団法人日本山岳協会は平成24年度から推薦団体となっている(自然公園指導員設置要綱環自総発第120401001号平成24年4月1日による)。日本山岳協会が推薦の自然公園指導員は全国で24名の方が平成26年4月1日から任期が2年で委嘱され、活躍している。

自然公園指導員から提出を受けた年間活動状況報告から、平成25年度の活動状況は、情報提供・植生保護・利用者指導・美化清掃が7割を占めた。



## 第2回 「山と自然の聖地の集い」

開催日：9月12日（金）18:00～20:00

場所：ニュー新ホール会議室（ニュー新橋ビル B2F）  
東京都港区新橋 2-16-1（JR新橋駅前）

講師 高橋進氏

東京都生まれ。

昭和47年東京大学農学部卒業、環境庁入庁。国立公園管理、生物多様性保全などの政策立案に従事。米国東西センター客員研究員などを経て、平成14年より共栄大学教授。専門は自然保護政策、特に生物多様性や保護地域に関する国際環境政策。「全国巨樹・巨木林の会」（ホームページ <http://www.kyojyu.com/>）の設立にも関わり、現在は会長。世界の国立公園なども訪問し、地球的視野から人と自然との関係を見つめ続けている。

著書「自然保護地域と自然の聖地」

## 雑記

先日、映画「ビヨンド・ザ・エッジ」の試写会で行った。この映画、若くしてクライミング界で名をはせるデビッド・ラマが、難攻不落の山として有名なセロトーレにフリークライミングで挑戦する姿を捉えたドキュメンタリーものの映画であった。世界中の登山家達が登頂を夢見る南米パタゴニアの鋭峰に、命綱と自分の手だけを頼りに登ろうとする天才の約3年に及ぶチャレンジを描き出したもの。

ある自然保護に深い関心を寄せる往年のクライマーが、「人工登攀の終焉」と題した短文に接した。その内容は、「1966年（昭和41年）7月10日、黒部別山大タテガビン南東壁正面壁鵬翔ルートを3名で初登攀した。ルートは、基部から登攀終了点まで全長480M、グレード「4級・A1」。この初登攀を契機に、南東壁は次々と新しいルートが、人工登攀（エイドルート）で開拓された。その当時は「ヒマラヤ鉄の時代」と云われ、岩壁にハーケンやボルトを打ち込む事は、ルートの難易度を下げない限り、抵抗感が無かった。しかし、高所登山も無酸素が当たり前となり、岩壁登攀も前進の為の人工を排し、ルートのフリー化、即人間自身の力で攀じる思考へと進化した。クライマーにも、自然環境保全の理念が浸透した証左であろう。自然は人間の畏敬の対象でもある。」と。

鍛錬した体力と技、それに最低限の装備で、自然と対峙する姿勢には、登山における自然保護の姿勢が見え隠れする。



## お知らせ

## ◆自然保護指導員養成出前講座

自然保護指導員などを対象とした養成研修会へ、日本山岳協会自然保護常任委員を講師として派遣いたします。ご希望がありましたら委員会（本書末尾に記載）へお知らせください。

## 会議等

## ◆自然保護常任委員

平成26年4月15日

平成26年5月8日

平成26年6月12日

平成26年7月10日

## ◆山岳団体自然環境連絡会

平成26年4月25日

平成26年5月23日

平成26年6月27日

平成26年7月31日

## ◆山と自然の聖地研究会

平成26年4月28日

平成26年5月12日

平成26年6月19日

## 予定

## ◆第三回関東地区自然保護交流会

10月18日～19日 那須

## ◆第38回自然保護委員総会

11月22～24日 広島市

## ◆日山協主催指導員研修会

11月29日 代々木

## ◆自然保護指導員育成出前講座

（未定）

編集後記 2回目の発行に何とかこぎつけた。常任委員会研修会で武蔵御嶽を訪れた。そこで御師集落の独特の文化に接し、時代を超えて続けられてきた暮らしや伝統文化を垣間見るとともに、日本人の心の原点を感じた。（松）



発行元

公益社団 日本山岳協会 自然保護委員会

〒150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館

☎ 03-3481-2396 📠 03-34891-2395

HP [www.ima-sangaku.or.jp](http://www.ima-sangaku.or.jp)Blog <http://mountprotection.sblo.jp/>

発行日 平成26年8月1日

発行番号 2014年夏号 (2014-02 pub1)